

## 第 1 回京都市中学校教科書選定委員会会議 概要

### 1 日 時

令和 2 年 5 月 1 8 日（月） 1 8 時 3 0 分から 1 9 時まで

### 2 会 場

京都市総合教育センター 永松記念ホール 他

### 3 出席者

選定委員 1 0 4 名

### 4 議 事

教科書選定に関わる教育長からの諮問の確認及び教育委員会事務局からの説明の後、各教科調査研究部会で協議が行われた。

（当日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外部委員については資料の持ち回りによる説明を行った。）

- (1) 令和 3 年度から令和 6 年度まで京都市立中学校及び義務教育学校（後期課程）において使用する各教科教科書の選定についての在田教育長からの諮問の確認を行った。
- (2) 事務局から教科書選定の進行、公正確保等についての説明を行った。
- (3) 委員の互選により正副委員長が選出された。
- (4) 調査研究部会全体会で、業務内容説明及び部会長の選出が行われた後、各部会において、副部会長の選出、調査研究における「選定の視点」や調査研究方法、今後の部会開催日程について協議が行われた。

## 第2回京都市中学校教科書選定委員会 概要

### 1 日 時

令和2年6月12日（金）17時20分から18時40分まで

### 2 場 所

京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）2階 会議室

### 3 出席者

(1) 選定委員 3名（保護者代表のみ）

(2) 教育委員会事務局

文田学校指導課担当課長，小泉学校指導課課長補佐

### 4 議 事

事務局から教科書採択事務の現況及び現時点での調査研究の状況についての報告を行い，外部委員からの意見を踏まえ，協議した。

（当日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため，選定委員会委員のうち，保護者代表に資料の持ち回りによる説明を行った。）

### 5 外部委員の主な意見と事務局の回答

- ・すべての教科で対話的な活動が豊富に設定されている印象。ねらいは何か。  
→新学習指導要領においては，対話的・協働的な活動が重視されており，他者の様々な意見や考えを聞き，理解することによって，より深い学びへとつながるよう構成されている。また，自分の考えを他者に伝える活動を通して，要点を捉え，まとめる力や言語能力の向上にもつながられている。
- ・教科書に様々なグラフや写真などの資料がカラーで豊富に掲載されている。教科書を読めば生徒自身で学習がある程度進められるような構成になっている印象。資料が豊富に掲載されている反面，教員は授業ですべてをとりあげて説明するのは大変ではないか。また，英語科は小学校で今年度から教科化されたが，小学校と中学校の接続が重要だと考える。  
→多様な資料などが掲載されており，生徒が自学自習を行いやすい教科書となっている。教員は授業の中で生徒にどのような力を身に付けるのかというねらいを明確にした授業展開を考える中で，効果的に資料を活用していくことが大切となる。また，英語科についてはご指摘のとおり，小学校の学びを効果的に中学校へとつなげられるような工夫が各教科書に見られることが一つの特徴である。
- ・教科書にあらゆる情報が記載されていることにより，逆に自分で考える活動が少なくなったり，授業でノートをとることの意義を見なおす必要も出てくるのではないか。  
→ご指摘のとおり，振り返り活動や調べ学習など，教科書に記載されていること以上に深く学ぶことができる工夫や手立てにも着目しながら今後の採択事務を進めてまいる。また，ノートについても単に教科書を写すのではなく，より深く学ぶために必要な情報を書き留めたり，振り返り学習に活用できるものとなるような教科書の工夫がなされているかということも考慮しながら調査研究を進めてまいる。

## 第2回京都市中学校教科書選定委員会 概要

### 1 日 時

令和2年6月15日(月) 18時00分から19時55分まで

### 2 場 所

京都市総合教育センター 第2研修室

### 3 出席者

(1) 選定委員 3名(学識経験者のみ)

(2) 教育委員会事務局

佐藤総合教育センター所長, 太田学校指導課長, 宮田統括首席指導主事,  
文田学校指導課担当課長 他

### 4 議 事

事務局から教科書採択事務の現況について説明を行った後, 各教科指導主事から現時点での調査研究の状況についての報告を行い, 外部委員からの意見を踏まえ, 協議した。(当日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 選定委員会委員のうち, 学識経験者のみの参加とし, その他の委員については, 資料の持ち回りによる説明を行った。)

### 5 外部委員の主な意見と事務局の回答

(1) 各教科内容について

- ・国語科の教科書に, 「自分の言葉で書きなさい」という設問が適宜設定されている。何かを述べる際には, これまでに会った文章や言葉を引用したり取捨選択することが多く, オリジナルな言葉で表現するのは非常に難しいと感じた。  
→「自分の言葉で書きなさい」という設問は, 生徒が学習した知識等の中から引用・取捨選択することが必要となる。評価にあたっては, 同じ文章を読んでも, 生徒によって印象に残るものは様々で, そこから生まれる表現も多様であるという点にも, 留意が必要となる。
- ・理科の授業において, 実験の機会は多いか。実験の基本動作を生徒が身に付けられるよう, しっかりと学んでほしい。  
→新学習指導要領では, 観察・実験が重視されており, 実験の機会は多く取り入れるようにしている。現在は, 新型コロナウイルス感染症の影響で実験を行うことが難しいため, タブレット等 ICT 機器を活用し, 実験動画を見ることで代替している。
- ・道徳科については, 今の生徒がどのようなことを考え, どのような状況にいるのかを考慮したうえで, 教科書を選ぶ必要があると考えている。今の中学生をどのように捉えているかお聞かせ願いたい。  
→生徒たちは, 日々の生活において, 自分なりの答えを見つけられるよう, 意識しているように感じる。道徳科では, 多様な教材と出会うことができるため, 他の生徒の意見を聞き, 考え, 議論する中で, 自分の考えを柔軟に変化させる生徒の姿も見られる。
- ・中学生同士の日常の会話の中では, どのように自己表現をしているか。  
→会話の様子を見てみると, 「聞いてほしい」と思っている生徒が多い印象である。そのため, 自分の考えが受け入れられるという学級経営, 雰囲気づくりを大切にしたい。

- ・家庭分野において、男女が一緒に授業を受けるようになって、企業や大学においてダイバーシティが進んだと評判である。
- 男性の育児参加も進んだと感じている。男女共同参画の視点からも、家庭分野の学習を大切にしていきたい。
- ・技術分野におけるプログラミングの授業は、実際にパソコンを操作しながら取り組むのか。
- コンピュータ室で、実際にパソコンを操作し、ソフトを使いながら授業を進める。プログラミングの題材は種類が豊富であり、各校が適した題材を選んでいる。

## (2) その他

- ・教科書の指示が多かったり、具体的すぎると、生徒が機械的に学習を進めたり、考える余裕がなくなる。生徒が主体的に学習に取り組むとはどういったことか、視野に入れながら研究を進めていただきたい。
- ・評価は難しいと思うが、プロセスが示されていても、複数の回答が出ればおもしろいと感じる。
- ・教科書を調査するにあたり、授業をする教師の役割をどのように考えているか。教師によって力量は様々だが、教師がどのように教科書を使用することを想定しているか。
- 教科書に具体的な学習過程が示されすぎていると、教師の指導の幅が広がらないことが懸念される。一方で、経験の浅い教師が増えてきてる中で、ある程度学習過程が示されている教科書のほうが、授業展開を考える際に扱いやすいという見方もある。調査研究部会では、こういった視点を持ちながら調査研究を進めているが、基本的には教師が授業を構想しやすい教科書、また、生徒が「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を意識しながら、主体的に取り組めるような教科書を選定していきたい。
- ・聴覚障害の生徒や、色覚障害のある生徒等のことを想定した調査は進めているか。
- 特別な配慮を必要とする生徒については、デジタル教材も活用しながら、障害の程度に合わせた学習が進められている。今は、ユニバーサルデザインがすべての教科書で採用され、専門家の後閲を受けるなど配慮されているが、そうした点も含めて、調査研究している。

## 第3回京都市中学校教科書選定委員会 概要

### 1 日 時

令和2年7月20日（月）18時00分から20時20分まで

### 2 場 所

京都市総合教育センター 第2研修室

### 3 出席者

(1) 選定委員 17名

(2) 教育委員会事務局

佐藤総合教育センター所長，太田学校指導課長，宮田統括首席指導主事，  
文田学校指導課担当課長 他

### 4 議 事

(1) 委員長から挨拶が行われた。

(2) 事務局から教科書採択事務の現況について説明を行った後，各教科，調査研究部会ごとに部会長及び指導主事から，調査研究の結果及び答申案についての説明を行い，外部委員からの意見を踏まえ，協議した。

（当日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため，選定委員会委員のうち，外部委員及び各調査研究部会部会長のみの参加とし，その他の委員については，資料の持ち回りによる説明を行った。）

(3) 答申案については，委員長提案により正副委員長預かりとすることで了承された。

### 5 外部委員の主な意見と調査員及び事務局の回答

(1) 各教科内容について

・外国語科において，小中接続についての説明があったが，小学校の教科書は，どの教科書会社を採択しているか。外国語科に限らず，他教科でも小中接続の視点は重要である。

→小学校は，光村図書である。中学校の現在使用教科書は東京書籍であるが，教科書会社が違って，小中接続について問題なく進めることができている。他教科でも小中接続は重要な視点だが，教科書が違って大きな影響は生じない。

・音楽科や美術科は，人生を豊かにする大切な教科だと考える。これらの教科こそ，生徒がより主体的に取り組むことができるような授業展開であってほしい。

・道徳科について，何人の調査員で調査し，また，調査研究方法はどのような方法か。

→8人で調査研究を実施した。まず，学年ごとの「横」の視点で内容を調査し，それぞれの意見・評価を持ち寄り，その後，学年を越えた「縦」の視点で特長的な部分等を調査した。

・調査研究の妥当性・信頼性を担保するため，どのような調査研究方法により結論に至ったかを，明らかにする必要がある。

→選定にあたっての基本方針や観点・視点はもとより，選定委員会の概要や，各教科書の特徴等をまとめた資料もすべて公開する。各教科の調査研究部会は，簡易なものも含め，延べ100回にわたり開かれており，そのすべてを記録することは難しい面があるが，ご指摘を踏まえ，今後，研究・工夫してまいりたい。

## (2) その他

- ・教科書は、検定合格しているという点でどれも等しいが、生徒たちにとって使いやすい教科書を選定するためには、新学習指導要領に基づく選定の観点からの調査研究に加え、京都市の生徒の実態や特長、教員の状況をしっかりと把握したうえで調査研究を進めていくことが必要である。
- 本市では、単に知識を覚える授業形式から、コミュニケーションを図る場を多く設けるなど、子どもたちが主体的・対話的に取り組めるよう授業改善を進めてきている。これまでの授業改善に向けた実践等を踏まえ、選定の観点や視点を設定しており、その中で、今回は特に、生徒が主体的に学べるよう工夫されていることなど、生徒目線を大切にしている。
- ・調査研究にあたり、教師の立場からだけでなく、生徒の意見も反映できるとよい。
- 生徒の意見は千差万別であるため、難しい部分があるが、各教科の選定の観点において、適宜「生徒が」との主語を追記することで、調査研究にあたる教員が、生徒の目線に立って研究を進められるようにしている。今後、ご指摘いただいた部分を生かして、採択作業を進めるよう努めていく。
- ・調査研究部会の部員数を教えていただきたい。
- 最も人数が多い社会科等においては13名、最も少ない音楽科等は8名で、全体の人数は104名である。
- ・今年度の教科書展示会について、会場数を減らすなど、感染症対策を講じたうえでの実施であったが、例年と比較するとどのような状況か。
- 昨年度、11会場で開催した小学校教科書採択にかかる教科書展示会と比較すると、今回6会場で開催した中学校教科書採択の方が、意見書・閲覧者数ともに多く、中学校教科書採択への市民の関心の高さが感じられるところである。
- ・感染症対策として、タブレット端末等を使用した授業が取り入れられているが、実際にオンライン授業等が普及した場合、対話的な学びの実現はどのようになるか。また、第2波を想定した場合、家庭学習でのタブレット端末は重要なツールとなるが、学びの中心は教科書となる。
- Zoomを活用するなどして、オンライン上で対話的な学習ができるよう検討している。現時点では、まだ調整中の部分も多い。
- 現在は、感染症対策として、マスクの着用や換気等に加え、生徒同士が対面になることを避けながら授業を実施するケースが多い。その中で、各校が工夫され、対話的な学習を進められている。ICT機器を使用した対話的な学びについて、各校の実践も生かしながら、検討していきたい。また、仮に第2波が到来した際、オンラインやリモートでのタブレット端末の活用が求められるが、そうした際も、教科書の学びは大切であり、そうした意味で生徒自ら勉強しようと思うような教科書を選定してまいりたい。
- ・最近の教科書は、カラフルでたくさんの資料が掲載されている。親の願いとして、子どもには、学校の授業を通して、社会に出たときの「生きる力」を身に付けて欲しいと思う。先生方は、教科書をどのように活用しながら授業されているか。
- 最近では、カラフルな資料の掲載が増え、例えば東日本大震災に関連した写真など、生徒たちに視覚的に訴えることができるようになってきている。また、写真等の資料により、生徒が当時の様子を身近に感じることができ、ひと目見てすぐに気付きを得られる点で、充実している。
- 生徒が写真等の資料を通じて、何かに気付いたり、考えを深めたりできるよう、教師が資料の効果的な活用方法を考えていく必要がある。これらの視点を、京都市スタンダード（各教科の指導計画）の作成にも生かしてまいりたい。
- ・京都について、大人でも意外と知らないことが多いと感じる。授業で工夫されている

ことがあれば、お聞かせ願いたい。

→家庭分野における衣食住の学習では、専門家による浴衣の着付けや、だしの取り方を学んだりしている。また、京都らしい暮らしの文化等を学ぶため、京町家についての学習を取り入れるなど、それぞれの学習内容に合わせて工夫している。

- ・先日、高校生対象の貧困をテーマとしたワークショップの中で、「教科書で学ぶと他人ごとになる」という意見があり、非常に印象的であった。試験のためだけに教科書を使うなど、他人ごとにならない教科書の使い方ができるよう工夫された授業をしていただきたい。